



からだに放射線を受けたらどうなるの？

からだに放射線を受ける(被ばくすると)、細胞が傷つきます。しかし、受けた放射線の量が少ないときは、からだの治癒力で、ほとんどの細胞がもとに戻ります。また、体内に取り込まれた放射性物質は、代謝により徐々に排せつされます。日ごろ、自然界(大地や食物など)や、レントゲンなどから放射線を受けている私たちが、健康への影響を特段感じることなく生活できているのはこの治癒力によるものです。

ただし、多量の放射線を受けると治癒力がうまく働かず、やけどをしたり、がん、不妊などの症状がでることがあります。

身の回りの放射線 (単位:ミリシーベルト)



自然界(日本)
2.1(年間)



CTスキャン
6.9(1回)

福島第一原子力事故で
周辺の住民が受けた
放射線の量
(福島県内の大人)

最大9.3
(事故後1年間の積算値)

出典/独立行政法人放射線医学総合研究所「2000年国連科学委員会報告」「国際放射線防護委員会の1990年勧告」等
UNSCEAR2013報告書

被ばくによる影響の例

永久的に不妊になる症状が出始める放射線の量は以下の通りです。
(個人差があります)

	一度に受けた場合 (ミリシーベルト相当)	何年にもわたって受けた場合 (ミリシーベルト相当/年)
男性(睾丸)	3,500~6,000	2,000
女性(卵巣)	2,500~6,000	200超

出典/ICRP Publication 60,103 食品安全委員会「放射性物質に関する緊急取りまとめ」

妊娠の可能性のあるときに放射線の検査や治療を受ける際は、お医者さんに相談しましょう。

原子力発電所の事故の時に 被ばくを少なくする方法はあるの？



※コンクリートの建物がより効果的です

建物の中でのポイント

ドア・窓・換気扇をしめる

うがい手洗い



食品への
ラップがけ



マスク



ハンカチ

建物に入るまでは口をふさぐ

被ばくを少なくするためには、放射線や放射性物質に「近づかない」「近く時間を短くする」ことや、これらを「遮へいする」ことが重要です。

このため、原子力発電所の事故の時には公共機関からの情報や指示に従い、「発電所のそばから離れる」「建物の中に入る」などの行動をお願いいたします。

東京電力は、福島原子力事故を忘れることなく、安全を追求し続けます

